

就労移行支援事業



今年の夏も施設内外での訓練をたくさん行いました。毎日元気に「行ってきます！」とそれぞれの企業に出かける訓練生。作業所内では納期に間に合わせようと時間を意識して取り組む訓練生。それぞれがそれぞれの場所で一生懸命頑張っています。そして、協力して下さる各関係者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

作業所内では作業だけではなく、座学の時間も設けております。9月1日は「防災の日」ということで今回は災害について学びました。

<調べた内容>

- ・避難場所
- ・避難時持出品
- ・非常食
- ・災害危険区域
- ・防火扉
- ・過去の災害



等



僕の住んでいる地域は〇〇に避難すればいいのか・・・
忘れないように書いておきます



非常食の日持ちはどれくらいかな～



避難する時はどんなものを持ちだせばいいかな

災害がおきる前に準備をすることが大切ですね

非常食にはどんなものがあるかな？



就労継続支援B型事業

月に一度の実施を予定しているあじさい会！7月はコロナウイルスの状況を踏まえて、作業所内でプチ縁日を開きました。限られた場所の中でしたが、ヨーヨー釣りと糸引きくじを行い、とても盛り上がりました！

徐々に行事が再開し始めたので、リフレッシュしながら、それぞれの目標実現のためがんばっていきましょう！

【7月：青空縁日開催！】



ヨーヨー釣り

糸引きくじ

豪華賞品ゲット！

自主製品の製作にも励んでいます！

丁寧に刺繍をしたトートバックや巾着。世界に一つしかないフュージングガラスのヘアピン。随時製作しているので、ぜひお買い求めください！



10月には、もだに農園でのリンゴ狩りが予定されています！
次回青空通信でご報告しますので楽しみに♪

《お願い》

リサイクル封筒を作成する際に、カレンダーを使用しています。不要な未使用のカレンダー（裏面が無地のもの）があれば、お譲り頂けるとありがたいです。ご連絡頂ければ、取りに伺います！ご協力の程よろしく申し上げます。

施設改修の報告



施設の屋根・外壁の老朽化に伴う、補修・修繕工事を行っています。足場を組んでの作業となっていますが、安全には万全の配慮を行い進めております。

今しばらく時間を要しますが、次号にて完了の報告をさせていただきますと思います。



寄付お礼



杉本洋子様より寄付をいただきました。

法人の活動に活用させていただきます。大変にありがとうございました。

今後とも、どうか末永いお力添えを頂きますよう宜しくお願いいたします。

怖い社長(その2)

柏木 真司

再び会社訪問した際、私はYシャツの一番ボタンを外して、いつも以上に大きな声で「こんにちは、お邪魔します。」と社長に挨拶。「お忙しいところ申し訳ありません。これつまらんもんじゃけど、休み時間に食べてください」と手土産を渡す。「Aさん、ちゃんと仕事やとりますか？」と話す社長は「お菓子なんてもろうてわるいなあ。どうせ自腹切ったんやろ。ありがとな。」と今までにない穏やかな対応。私は気持ちがずっと楽になりました。

この後、何度か訪問することになりますが、これまでのように気が重いどころか社長と話すのが楽しみにさえなっていました。Aさんの話は早々に済ませ、会社経営のことや障がい者雇用に対する考え、学校や福祉施設の職員への思いなど、たくさん話をして頂きました。これらを聴いているうちに社長がこれまで関係者に厳しく接してこられた理由が分かりました。そして肝心のAさんの職場実習は無事終了。結果は採用となりました。

この時のことを振り返ると、毎日油まみれになり、仕事に追われ、経営の悩みを抱えている状況のなか、スーツにネクタイを締め、どこか営業マンのような話し方で訪問してきた私に対して社長はさぞかし不愉快だったろうと思います。障がいのある方の就労支援を行うとき、まずは支援者が会社に受け入れられ、信頼されることが第一です。相手の置かれた状況に気を配り、その気持ちを考え、話し行動すること、そして自分が心を開いて相手と接することが何よりも大切なことを学ばせていただきました。実際、この社長の言葉は少々荒いですが、心を割って話せば人情味のある優しい方でした。今、お元気でしょうか。とても懐かしい社長との思い出です。

(第5回終)

青空通信

NPO 法人 ウェルコミュニティ飛騨 青空作業所

高山市山口町 1297-1 0577-35-1559

<https://www.welcom-aozora.com/>

令和4年 10月 13日発行 第54号



理事長挨拶



理事長 柏木 真司

日頃より、ウェルコミュニティ飛騨 青空作業所の活動に対し、ご支援を賜り深く感謝申し上げます。毎年この頃になると飛騨は「四季」ではなく、「二季」なのではと感じてしまいます。先日まで暑い暑いと言っていたかと思いきや、最近は冬着を取り出し、エアコンのスイッチを冷房から暖房へと切り替えるようになりました。急激な気温の変化に体が追い付かない状況ですが、体調を崩さないよう留意したいと思います。

さて、9月14日の新聞に「障害者権利条約」について、国連の委員会が日本の取り組みを初めて審査し、勧告を公表したとの記事が掲載されました。その内容として、精神科病院での無期限の入院の禁止、脱施設化、インクルーシブ教育の確立などが示されました。これにより日本の障がい者権利擁護の状況は、世界のレベルから見るとまだまだ立ち遅れていることが改めて指摘されたこととなります。

私は中学3年生の時、歩行の際は松葉杖を使用していました。高校進学については自宅近くの普通高校を希望していましたが、進路相談の際、養護学校(今の特別支援学校)を勧められました。その当時は障がいがあるのだから、特別支援学校に進学するのが当たり前といった感じでした。しかし私は中学まで一緒に過ごしてきた友人と同じ高校へ行きたいと願い、希望する普通高校を受験しました。幸い合格はしたものの入学手続きの際、高校側から「あなたが学校生活を送るうえで特別な配慮はできない」と言われ、入学許可の条件として、万が一事故があっても学校は責任を負わないという文面に親子で署名をしました。40年以上も前の話ですが、今も忘れられない記憶の一つとなっています。

2013年に学校教育法が改正され、障がいの状態や本人と保護者の希望を踏まえて就学先を決められるようになりました。そして障害者差別解消法が施行され「合理的配慮」が明示されました。法律は整備されてきていますが、実態がそれに伴い改善されているかは疑問です。障がいがあるないに関わらず、一人ひとりが人生の主演として生きていける社会を構築していくことが大切であると思います。

